

特別企画

京都老舗の肖像



京都府では、創業100年を超える企業を「京の老舗」として表彰している。約1900社のうち、最多数（500社）は「卸・小売業」である。中小の小売業が難しい昨今、長く生き残る知恵を探る。

和諧堂

続けることでなく、お客の役に立つ
それこそが商いの目的

駅前商店街の中央部に位置する和諧堂。台風の被害を受けたが、リニューアルし乗り切った



京都府舞鶴市の眼鏡専門店「メガネの和諧堂」は、京都府から「京の老舗」として認定され、今年1月に表彰を受けた。同店は創業136年の、文字通りの老舗である。

現在はJ R西舞鶴駅から徒歩数分のマナイ商店街に店舗を構えるが、創業時は同じ商店街のやや北寄りに店があった。現在64歳の塩見昭社長は、創業者の文吉氏から数えて四代目に当たる。

1978（昭和53）年、26歳で家業に入った。

「大学を出て2年間、眼鏡店に勤めながら眼鏡学校や宝石、時計の学校に行き、店を継ぎました。われわれの時代は継ぐのが当然という認識があったのです」（塩見社長、以下同）

**100年前から正札販売
祖母を知るお客との邂逅**

家業の長い歴史について知ってはいた。十数年前、たまたま創業後間もないころからの写真を目にし、あらためて老舗の重みを感じた。

それらの写真は今から50年ほど前に、塩見社長の祖母がきちんとアルバムに整理したものだ。何枚かの写真には、記憶にある祖母の姿が写っていた。塩見社長はその顔を見た途端、いかめしく映るセピア色の店が、急に身近に感じられたという。

写真の中の店頭には、掛け時計、置時計、蝙蝠傘製造販売、各種眼鏡販売所といった看板の文字が見える。